

## あとがき

第29回関西フランス語教育研究会は2015年3月20日、21日の両日にわたり、アンステイチュ関西—大阪で開催されました。本年度は種々の事情から、例年より一週間早い開催となりましたが、今年も94名の参加者を迎え、例年に劣らず活発な議論が交わされました。いつもご参加くださっている皆様、遠方より足を運んでくださった皆様、新しくご興味を抱いてご参加くださった皆様に深く感謝いたします。

今年は「学びの媒介」と「フランス語教師の専門性とは」の二つのテーマを中心にした22のアトリエが実施されました。さらに、出版社による4つのアトリエ、Jean-Benoît NADEAU氏による講演« La langue française n'a pas dit son dernier mot », 「教員養成 / 相互研修の現場から考えるフランス語教師の専門性」と題したターブル・ロンドが実施され、例年のように充実した内容の研究会となりました。ご発表くださった皆様、また、いつもランコントル開催を支えてくださる皆様に、心より御礼を申し上げます。

今年度のテーマは、個々の教師にとってさまざまな視点から拡大解釈できるものでした。その可変性を生かして、例えば **Thème 1** の「媒介」を、学習ツールによる媒介、日本語や英語など他言語による媒介、市民性による媒介、文化による媒介、また学習者による媒介と捉えるなど、参加者にフランス語教育の広がりをはっきりと提示してくれるものでした。そこにはフランス語教育が、さまざまな環境要因が加わろうとも、柔軟性を示しながら前進しているしなやかさが見て取れました。

第29号となる本論集には、そういったアトリエでの発表内容を中心とした計16本の論考が寄せられました。新学期の始まる多忙な時期にもかかわらず、寄稿してくださった皆様に心より感謝いたします。

来年度のランコントルは第30回という記念すべき年に当たります。これまでのランコントルの歴史とフランス語教育の在り方を振り返るとともに、これからの新しい時代に向けて更なる考察のできる場となるよう、運営委員一同一層盛り上げていく所存です。来年も皆様に再会できますことを楽しみにいたしております。

第29回関西フランス語教育研究会 副事務局長  
岸本聖子 (KISHIMOTO Seiko)